

令和2年度 社会福祉法人明徳会 事業報告

～令和2年度は下記のような計画でした～

① 「明徳会」のブランドの再構築を図っていきます。

- 開設当初から大切にしてきた権利擁護（アドボカシースタンダード）を基にして、前向きにチャレンジする気持ちを誰もが持てる施設作りに取り組んでいきます。
- ご利用される方にとって最善で先駆的なサービスを提供できるよう、内部・外部を問わず、スキルアップ・フォローアップ研修を積極的に行っていきます。
- 意思決定支援を基にして、ご利用者様がわかりやすく楽しく喜んでいただけるようなサービスの提供を目指します。体感しやすく、選び易い「提案の見せる化」を追求し、信頼できるブランド力を求め明徳会の強みを生かした「ブランド力の再構築」に取り組んでいきます。

② 職員・ご利用者様の多様性に対応できる環境をつくります。

- 新卒の学生が集まらない、正規職員が集まらない等の現象は可能な限り策を講じ、長期的に解決する方針を続けていきます。その一方でパートスタッフや夜勤対応スタッフの雇用等、今できることをピンポイントで対応し現実的な対応策を講じていきます。
- 働く職員の生活スタイルや仕事に対する価値観、家庭と仕事の両立等、様々な雇用条件の多様性に対応していきます。多様な働き方に対応しながらも公平性の観点を意識し、バランスの取れた給与体系の整備を進め、働き方改革による有給取得や休憩の取れる人員配置に努めていきます。

③ 安定した経営基盤の確立とチャレンジできる法人組織の強化を図っていきます。

- 今の社会情勢を踏まえ事業拡大を進めます。グループホームを開所させ安定した運営をスタートさせます。また、事業拡大は必ずしも新規事業を開始することだけではなく、今のサービスについて利用率や効率を上げることも事業拡大と捉え、既存の施設サービス運営について分析・見直しを図っていきます。
- 組織づくりでは、これまで支援員等が片手間に行ってきた委員会や係の業務を専門的に行う機関の整備に着手していきます。また、何度かチャレンジして実現までできていないコンシェルジュや、人材育成の専門部署設置も視野に入れ準備していきます。
- SDGsの整備を進め、明徳会としてまた一職員として持続可能な開発目標の策定・実行を進めます。

一言コメント

平成13年からスタートした「VISION」を見直し、新たに「VISION2」を作成し再スタートとします。2024年までの達成を目指し頑張ります。

◇ 事業方針

「ブランド力の再構築」

令和元年度は新たに「VISION2」を作成し、2024年度を目途に取り組む重点目標を掲げ事業を運営していくこととしていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け多方面で方向転換を余儀なくされるところが出ています。中でも実践できること、その代替えとしての運営等、工夫を行いながら取り組んでいます。コロナ渦の中マイナスばかりではなくプラスに転じてくれる要素もあるため、プラス面にも目を向け次年度の計画検討に生かしていきたい。

～上記計画に対し事業所ごとでの取り組みの報告～

●チャレンジめいとくの里

【入所／介護系】

入所に関してはグループホームができたことで数名入れ替わりが 있습니다。コロナ禍で利用状況の減が通所も若干あっており、特に短期入所に関してはほぼ年間通して閉鎖している状況でかなりの収支に影響が出てしまっている状況でした。年明けの1月からは3名程度ではありますが感染予防を充分に行うことを条件に再開することとしています。入所のご利用をされている方中には特に基礎疾患があり、感染に注意しなければならない方が多くいらっしゃるため、今後も感染防止策を徹底しながら経営とのバランスを図り運営していくことが重要となってきます。

【ゆめくらしワークス】（就労支援・生活訓練・就労継続支援B型・就労定着支援）

元年度はご利用される方も多く、職員一人当たりの負担が大きくなっていましたが、2年度は逆に新型コロナウイルスの影響でお休みをされる方や新規のご利用を敬遠される方も多く、就労分野に関してもかなりのご利用する方が減少している状況です。特に生活訓練に関してはご利用者数がかなり落ち込んでいるため、今後どうしていくか大きな課題となっています。

●障がい福祉サービス事業所

【ケア・ハピネス】

ケア・ハピネスに関しても収支に関しては人員配置加算の1.7:1が取れたことで上がっていますが、途中事業所を一時的に新型コロナウイルスの影響で閉鎖するといったことがあり、利用状況的には若干減少しています。今年度途中におがた小児科内科医院の緒方先生に協力医療機関として提携していくことにいただき、医療面での支援の足掛かりを得ることができ、支援していく上での安心へとつなげています。総合的に見れば利用率も徐々に上がっては来ており、次年度も支援学校卒業生も数名新規で利用される予定もあり、安定傾向にあります。次年度は重度加算取得を視野に入れ、支援の手厚さと収支の安定へとつなげていく事を目標としていきます。

●地域連携部

【熊本市障がい者相談支援センターチャレンジ／地域生活支援センターメイト】

委託3年目の一区切りの年となっています。相談に関しても新型コロナウイルスの影響から在宅ワークを取り入れ感染予防を行いながらの業務遂行を実施しています。令和3年度からの委託継続をおこなっていくのかはギリギリまで検討を重ね、最終的には次年度北区での委託を受け相談を継続することとなっています。地域コーディネーターの配置など新たな動きが必要となってきている中、一年目はまずしっかりとした基盤づくりを目指していく事となります。

●ゆめくらし事業所

【オレンジハウス／アクアテラス】

令和2年度7月に新たなグループホーム「アクアテラス」を開所する予定としていましたが、工事期間の影響から10月の開所となっています。オレンジハウスと、アクアテラスで男性女性分けての運営も検討しましたが、男女でホームを分けるのではなく入居される方のバランスを見て年齢層でホームを分けて運営する方向でスタートしています。オレンジハウスから移られた方もあわせて6名の方が12月までにアクアテラスへ入居されています。中身に関してはまだまだこれからという段階ですが、次年度には定員を満たすことを目指しています。

●事務部・人事

昨年度までは新卒入社希望者がかなり減少している傾向にありましたが、人材確保に関しては不況も影響してか逆に福祉への就職希望者は上昇しているように感じています。令和2年度の重点ポイントにも掲げている、「多様性」にどう対応していくか、職場環境、働き方改革への対応等は令和3年度も引き続き重点を置いて取り組んでいく項目となってきます。ESアンケートの聞き取りやストレスチェックの精査をおこないながら、職場環境の構築に取り組んでいきます。

◇ 「安心」「安全」「安らぎ」に向けて

まだまだ、このコロナ禍は令和3年度も続いていくと予想されているため、外部から驚異を遮断し、内部はコロナ禍であっても、あきらめずに可能なことは実行し新たなものを生み出す努力を続けていけるよう努めていくことが大切だと考えています。令和3年度の運営ポリシーの「ピンチをチャンスへ」を推し進めるにあたって、コロナ禍でも自分たちの出来ることをしっかりご利用者様へお届けすること、法人運営の基本となる「安心・安全・安らぎ」と権利擁護に関しては一番の柱となるものだと考えています。自分たちの強みを知り、実行し、振り返りPDCAを繰り返しながら、実行したものは外へしっかりと発信し、自分たちのブランド力を職員ひとり一人が感じる事ができる一年間としていきたいと思っています。

以上